

代謝機能制御系・器官機能制御学講座・応用生理学分野

Department of Integrative Physiology

(1) 構成

教授	鯉淵 典之	医博	専門：内分泌生理学, 環境生理学
准教授	下川 哲昭	医博	専門：神経分子生物学
講師	岩崎 俊晴	医博	専門：分子内分泌学
助教	高鶴 裕介	医博	専門：神経生理学
助教	薮島 旭	博士(行動科学)	専門：行動科学

(2) 現在の研究テーマ

- 甲状腺ホルモン・ステロイド等の核内受容体を介する生体機能の制御機構。脳発達や可塑性・薬物代謝を題材として研究。
- 環境化学物質による脳発達や生体機能への影響の解析。
- 膜ホルモン受容体の内在化機構について遺伝子改変動物を用い解析中。
- 環境因子によるシナプス形成の可塑性について、光学的解析手法等を用いて、リアルタイムで解析。

実験は細胞生物学的な実験を中心に遺伝子工学的実験、遺伝子改変マウス、顕微測光、電気生理、行動解析まで多岐に渡り行っている。

本年度科研費実績：共同研究もあわせ8件。他、受託研究など。

地域貢献：地元中高生に対する体験実習（文科省から一部補助）や教員に対する研修会などを実施。

(3) 大学院への入学方法

研修医修了後、昼間、夜間どちらも可。副専攻で選択し、実験を本教室で実施するのでも構わない。

(4) 現在所属の大学院生（本教室で実験を実施している学生）の実態

博士：5名（本教室所属4名，他科から出向1名）

修士：1名

他，MD-PhD コース学生多数在籍

(5) 大学院修了後の進路

留学希望者には留学先を斡旋する。基礎系の研究室に残りたい場合にも就職先の斡旋を行なう。臨床に戻るのであればそれも自由である。研究者のみならず、医学・医療教育者としての進路も希望があれば斡旋する。

(6) その他

「環境と生体機能」をキーワードに、生体機能に及ぼす環境因子の影響を、ホルモン等の液性因子が介する作用を中心に受容体から個体レベルまで統合的に解明するのが本教室の研究目標である。大学院生には、新しい分野を切り開く意欲ある人材を求める。また、研究は楽しく行なうというのが本教室のモットーで、疑問→仮説→検証というプロセス自体を楽しめる人材を求める。

また、外国人研究者が多い（5名在籍）というのも本教室の特徴である。毎週のProgress reportは英語で実施している。